

第3学年 国語科学習指導案

1. 単元名 学習したことを生かして 『モチモチの木』

2. 単元目標

物語を読んで感想や課題を持ち、一年間の学習を振り返って自分なりの学習課題や学習方法を考えて取り組むことで、自ら学び、考える力をつける。

自分で読みのめあてや学習課題を決め、学習方法を工夫して活動に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)

伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話す。(話す・聞く)

伝えたいことを段落相互の関係などを工夫しながら相手や目的に応じて書く。(書く)

場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読み、自分の考えをまとめることで個々の感じ方について違いがあることに気づく。(読む)

聞き手に、自分が考えたことが分かるように、適切な速さ、声の大ききで話す。(言語についての知識・理解・技能)

3. 知的好奇心を引き出すための指導の工夫

導入段階

滝平二郎の挿絵を使い、内容への興味を持たせたい。自分の読みを明確にするため、教師の読み聞かせの後、心に残ったことを初発の感想として書かせるようにする。そして、感想交流させることで、さらに詳しく読んでみたいことや、みんなでこれから考えていきたいことなど、読みの課題を持たせ、さらに読んでいこうという意欲を持たせたい。

書き込みについて

自由に書き込ませ、自分のイメージや考えをふくらませたい。しかし、書き込みに慣れていない実態から、書き込みそのものに抵抗のある児童については、キーワードについて自分の考えが書けるように支援していききたい。そして、発表し合いながら、友だちの考えを聞き、自分の考えと比べながら、少しでも自分の読みを広げたり、深めたりできるようにしていききたい。

音読について

音読は毎時間取り入れ、役割音読や読み方を工夫させながら、登場人物の心情に迫らせたい。そして、最後のまとめとしての音読発表会に向け、学習したことが生かせるように支援していききたい。

4. 指導計画(全15時間扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点
1	1年間の学習を振り返り、今回の学習の大まかな見通しを持つ。		
	1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の国語の学習を振り返り、学習のねらいを確認する。 ・「モチモチの木」を読み、感想や疑問などを話し合う。 ・感想をもとに、読みの課題をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな学習を行ったかというだけでなく、どんな力を身に付けたかを具体的に振り返らせる。 ・目的意識をもたせ、学習形態について触れておく。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・書き込みをする。 	

2	読みの課題を解決するために、「モチモチの木」を読みを深めていく。	
	4	・「おくびょう豆太」の場面を読み取る。
	5	・「やい、木い」の場面を読み取る。
	6	・「霜月二十日のばん」の場面を読み取る。
	7 (本時)	・「豆太は見た」の場面の前半を読み取る。
	8	・「豆太は見た」の場面の後半を読み取る。
	9	・「弱虫でも、やさしけりゃ」の場面を読み取る。
	10	・全文を読んで、感想を出し合う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「豆太」と「じさま」の性格や行動、二人の関係などを叙述に即して読み進める。 ・すらすらと読めるようになるために、繰り返し音読の機会をとる。 ・大事だと思う文章にサイドラインを引かせ、書き込みをしながら読み取りをさせる。 ・「豆太」や「じさま」の性格や行動・気持ちを想像し、二人と「モチモチの木」との関係について考えることで、音読発表に生かせるようにする。 ・挿絵と本文をあわせてより効果的に読み取りをさせる。 ・語り手の視点から書かれている文章形態になっていることに気づかせる。 	
3	音読発表会をするための計画を話し合い、練習をする。	
	11	・音読発表会計画について話し合う。
	12・13	・音読発表会に向けて練習をする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・誰を招待するかを話し合い、相手意識を持って計画を立てさせる。 ・学習したことが生かせるように、アドバイスをしあいながら学習を進めさせる。 	
4	音読発表会をする。	
	14・15	<ul style="list-style-type: none"> ・音読発表会を開き、感想を聞く。 ・学習の振り返りをする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に発表をする側、聞く側に音読発表会のねらいやポイントを知らせておく。 ・学習の成果を確かめるために、学習を進めていく中でどんなことを学んだのか、どのような国語の力がついたと思うか、友だちの発表から何を学んだのかの3点を中心に学習を振り返らせる。 	

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

「豆太は見た」の前半の場面を音読し、「医者さま」を呼びに走る豆太の様子と気持ちを読み取ることができる。

(2) 本時の展開(本時7 / 19)

学習活動	指導上の留意点(評価)
------	-------------

1. 前時の学習を振り返る。

2. 学習のめあてを持つ。

医者さまをよびに走る豆太の様子を想像しながら、豆太の気持ちを考えよう。

3. 本時の学習場面を読む。

4つの会話文をどのように読んだらいいですか。

「じさまぁっ。」

- ・助けてという気持ちで読む。
- ・じさまにしがみつこうとするほどこわい。

「ま、豆太、心配すんな。」

- ・おなかが痛くて声が出ない感じで。
- ・痛いけど豆太を心配させないように。

「じさまっ。」

- ・こわくてびっくりした感じで。

「医者さまをよばなくっちゃ。」

- ・早くよびに行かなくっちゃという気持ち。
- ・大変だから早く何とかしなくちゃ。

4. 医者さまを呼びに走る豆太の様子を読み取る。

医者さまを呼びに走る豆太の様子が分かるころはどこですか。

「小犬みたいに体を丸めて・・・」

「表戸を体でぶっとばして・・・」

「ねまきのまんま。はだして」

「半道もあるふもとの村まで」

- ・体を丸めて、いそいで走った。
- ・じさまを助けたいからあわてている。
- ・はだしだからあわてているのが分かる。
- ・戸がはずれるくらいすごいいきおい。

「豆太はなきなき走った。」

- ・痛くて寒くてこわかった。

「なきなきふもとの医者さまへ走った。」

- ・大すきなじさまが死ぬ方がもっとこわかった。

豆太の気持ちを考えて書きましょう。

5. 本時のまとめをする。

豆太の様子や気持ちを想像しながら気持ちを込めて読もう。

・「霜月二十日の晩」の学習を思い起こし、「冬の真夜中」「モチモチの木」「たった一人」が、豆太にとってどれほど怖いものであるのか振り返らせる。

- ・医者さまを呼びに走る豆太の様子や気持ちを考えながら、教科書P70L13までを音読する。
- ・豆太を心配させまいとするじさまの気持ちに気づかせる。
- ・初めの「じさまっ。」と次の「じさまっ」の違いについて考えさせる。
- ・どうしてそのように読むのか、自分なりの理由を言わせる。

場面の様子にふさわしい音読の工夫を見つけることができる。

- ・豆太の様子や気持ちが分かるところにサイドラインを引いて書き込ませる。
- ・書き込みをもとに話し合い、友だちの意見や違いを考えさせることで、豆太がじさまを思う強い気持ちを読み取らせる。

・「豆太は、なきなき走った」と「なきなきふもとの医者さまへ走った」の違いについて考えさせる。

・ワークシートに、ふもとまで走る豆太の気持ちを書かせる。

豆太の様子や気持ちを考え、話し合うことができる。

- ・本時の学習を生かし、豆太のじさまを思う気持ちが表れるように音読させる。